

英語		一般選抜入試(中期日程) 世界史(2月14日)	
世界史			
解答範囲は、解答番号 1 から 40 までです。			
I 次の文(1)・(2)を読み、下の問い(問1～問13)に答えなさい。			
(1) 日本文化について考えるとき、南アジアとの繋がりを意識する人は少ないかもしれない。しかし、日本には、古くから仏教が伝播し、そこに内包された南アジアの伝統文化が伝えられた。例えば、私たちが幼いころから親しんできた仮名五十音図は、 <u>サンスクリット語</u> 字母表に基づくものであるし、 <u>仮名学習</u> の手本とされた「いろは歌」も、 <u>仏教の無常観</u> を巧みに表現したものである。		問1 下線部④について。サンスクリット語に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。	
日本でもよく知られる七福神に含まれる毘沙門天や弁財財天も、 <u>ヒンドゥー教</u> に起源を持つ神格である。また、怪談の「耳なし芳一」で盲目の僧芳一が持つ琵琶という楽器も、インド起源のものと西アジアからインドを経て中国や日本に伝わったものがあるとされる。芳一の話は、 <u>アショーク王</u> の息子が遠征先で盲目となりヴィーナー(琵琶)を奏でて生活し都に戻ったとする <u>仏教説話</u> を想起させる。 <u>グプタ朝</u> の時代にその主要部がつくられたとされるアジャンター石窟寺院の壁画も、日本の法隆寺金堂の壁画に影響を与えたことが知られる。		① インドの二大叙事詩『マハーバーラタ』と『ラーマヤナ』はサンスクリット語で書かれた。 ② バラモンなどの知識人が用いたドラヴィダ語族に属する言語である。 ③ グプタ朝の時代に宮廷を中心にこの言語を用いた文学が盛んになった。 ④ 東南アジアにもこの言語を受け入れた国家があった。	
近現代にも、日本と南アジアとの繋がりは少なからずある。第二次世界大戦後、「憎悪は憎悪によって止むことはない」という <u>ガウタマ・シッダールタ</u> の言葉を引用して、日本に対する賠償請求権の放棄を明らかにし、日本を国際社会の一員として受け入れるよう訴える演説を行なったのは <u>セイロン(スリランカ)</u> の代表ジャヤワルダナであった。		問2 下線部⑤について。ヒンドゥー教に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。	
		① バラモン教にインド各地の民間信仰が融合したものが原型とされる。 ② ヴィシュヌ神とインドラ神が主神である。 ③ ブッダはヴィシュヌ神の化身の一つとされている。 ④ グプタ朝の衰退期からヒンドゥー教の石造りの寺院が建立された。	
		問3 下線部⑥について。アショーク王に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。	
		① マウリヤ朝を創始した。 ② 磨崖碑などに自らの命令を刻ませた。 ③ 仏教を尊重した。 ④ 平穏な社会の実現を目指し、ダルマを理念とした統治を試みた。	
		(2) 日本に暮らす私たちに親しみ深い仏教であるが、開祖ガウタマ・シッダールタの行動や言葉を、私たちはさほど知らない。最近では仏典の現代語訳の数も増え、ガウタマ・シッダールタの言葉が現代人にとっての人生のヒントとなり得るという認識が広まりつつある。例えば、現存最古の部派である <u>上座部仏教</u> が伝えてきた『ダンマ・パダ』という名の仏典には、 <u>ガウタマ・シッダールタ</u> が「生きづらさ」について語った記述が存在する。	
		恥を知らず、鳥のように厚かましく、図々しく、ひとを責め、大胆で、心のよごれた者は、生活し易い。 恥を知り、常に清きをもとめ、執着をはなれ、つつしみ深く、真理を見て清く暮す者は、生活し難い。 (『ブッダの真理のことは 感興のことは』中村元訳、一部改変)	
		このような言葉を遺したガウタマ・シッダールタを取り巻く環境は、どのようなものだったのか。当時、 <u>アーリヤ</u> 人の宗教であるバラモン教の聖典『 <u>リグ・ヴェーダ</u> 』は、世襲の宗教家「 <u>バラモン</u> 」たちによって継承され、新たに、 <u>ウパニシャッド哲学</u> と呼ばれる思想の展開を示した。これに対して、自ら望んで宗教家となった「 <u>沙門</u> 」たちは、バラモン教の権威を認めず、努力によって世界の真実を見ようと試みた。 <u>ヴェーダ</u> という階級を問わずに出家を許した <u>ジャイナ教</u> や <u>仏教</u> も、 <u>沙門</u> たちの教えであった。自己の思想を確立したガウタマ・シッダールタが初めて説法を行なった地は <u>サールナート</u> であり、ここから彼の思想は世に出ることになる。サールナートで発掘されたアショーク王石柱頭部のライオン像の足下に刻まれている法輪は、現在のインド国旗の図柄にも使われている。	
問4 下線部③について。グプタ朝に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。		① 4世紀に興った。 ② チャンドラグプタ2世のときに最盛期を迎えた。 ③ 法顕が陸路で訪れた。 ④ トルコ系遊牧民と結んでエフタルを滅ぼした。	
問5 下線部⑥について。ガウタマ・シッダールタに関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。		① 現在のインドとネパールの国境周辺で王国を形成していたシャーキャ(釈迦)族の王子として生まれた。 ② 迷いと悟りの因果を四段階に分けた四諦を説いた。 ③ 解脱に至るための教えを説いた。 ④ 仏典の結集を行なった。	
問6 下線部①について。セイロン(スリランカ)に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。		① ウィーン会議で、セイロン島はイギリス領となった。 ② 1948年にイギリス連邦内の自治領として独立した。 ③ かつてはインド洋航海を通じての綿布などの交易によって栄えた。 ④ ヒンドゥー教徒のシンハラ人と仏教徒のタミル人との対立から、内戦が起こった。	
正解・正解例			
国語			

一般選抜入試(中期日程) 世界史(2月14日)

問7 下線部⑥について。上座部仏教に関する記述として正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① 衆生救済を重視した。
- ② 悟りや智慧を求める修行者を広く菩薩として信仰する。
- ③ バガン朝で広まった。
- ④ 北伝仏教とも呼ばれる。

問8 下線部⑤について。アーリヤ人に関する記述として正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① 中央アジアからカイバル峠を越えてインダス川流域へ進入した。
- ② インダス文字を用いた。
- ③ インド亜大陸に進入する前は農耕民であった。
- ④ ドーラヴィーラー（ドーラーヴィーラー）は彼らの遺跡である。

問9 下線部④について。『リグ=ヴェーダ』に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① 神々への賛歌の集成である。
- ② これらヴェーダ文献の編纂時期をヴェーダ時代と呼ぶ。
- ③ 最古のヴェーダ文献である。
- ④ 最高神はシヴァである。

問10 下線部①について。ウパニシャッド哲学に関する次の文X・Yについて、その正誤の組み合わせとして正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

X 宇宙の本体ブラフマン（梵）と人間存在の本質アートマン（我）は本来一つであると考える。
Y 祭儀を形式的に行うことよりも、神々に対する心の底からの帰依を重視する。

- ① X = 正 Y = 正
- ② X = 正 Y = 誤
- ③ X = 誤 Y = 正
- ④ X = 誤 Y = 誤

問11 下線部③について。ヴァルナに関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① ヴァルナはもともと色を意味する。
- ② ヴァルナによる身分差別の原点は浄・不浄という考えにある。
- ③ 後のカースト（ジャーティ）制度の基礎となった。
- ④ シュードラをヴァルナの枠外に最下層民として位置付けた。

問12 下線部①について。ジャイナ教に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。

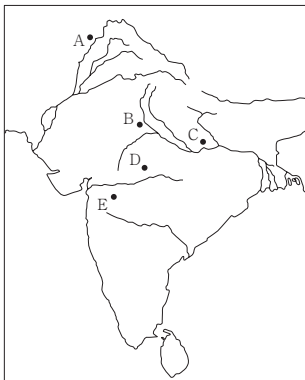
解答番号

- ① 開祖ヴァルダマナーはマハーヴィーラとも呼ばれる。
- ② 商人から支持された。
- ③ 特別な修行や呪文によって現世利益が獲得できると説く。
- ④ バクティ運動において攻撃の対象とされた。

問13 下線部②について。サルナートの地図上の位置として正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① A
- ② B
- ③ C
- ④ D
- ⑤ E



Ⅱ 次の文(1)・(2)を読んで下の問い（問1～問12）に答えなさい。

(1) ナポレオン＝ボナパルトが地中海に浮かぶコルシカ島に生まれたのは1769年8月15日のことであった。コルシカ島は^①ジェノヴァの植民地であったが、独立運動が盛んになり、ナポレオンが生まれる前年にフランスに売却されていた。コルシカ島を購入したフランスは、軍を派遣して、ナポレオンが生まれた年にこの島を占領したのである。ナポレオンは9歳のときに島を離れ、フランス本土の陸軍幼年学校に入り、15歳の時にパリの士官学校に進学し、翌年の1785年に砲兵将校となった。

のちに妻となるジョゼフィーヌも、フランス本土出身ではない。彼女は、1763年にカリブ海の砂糖植民地、マルチニク島の砂糖プランテーションを経営する家に生まれた。16歳のとき、フランス本土に渡り、ポアルネ子爵と結婚した。夫婦の間には二人の子どもが生まれたが、結婚生活はうまくいかなくなり、別居状態になっている。フランス革命が始まると、夫のポアルネ子爵は、^②アメリカ独立戦争に義勇兵として参戦したラ＝ファイエットらとともに自由派貴族として活躍し、^③国民議会では議長にもなった。だが、恐怖政治の時に逮捕され、1794年7月末にギロチンで処刑された。ジョゼフィーヌも^④投獄されていたが、夫の処刑の直後にクーデタが起こって恐怖政治が終わり、釈放された。

恐怖政治が終わった後もフランスの政情不安は続いた。1795年には王党派の蜂起が起こっている。この王党派の蜂起の鎮圧で活躍し、一躍有名になったのがナポレオンであった。ナポレオンは上流階級の社交界にも受け入れられ、恐怖政治後の社交界の花形となっていたジョゼフィーヌにすっかり魅了されることになる。王党派の蜂起鎮圧後、1795年10月末に成立した の中心人物の思惑もあって、二人は結婚することになった。

一般選抜入試(中期日程) 世界史(2月14日)

問1 下線部④について。ジェノヴァに関する記述として正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① ハンザ同盟に加わっていた。
- ② 主に北欧・バルト海貿易で繁栄した。
- ③ ヴェネツィアと東方貿易の覇権を争った。
- ④ アドリア海に面した海港都市である。

問2 下線部⑤について。

(ア) イギリス領北アメリカ植民地に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① 南部の植民地は、奴隷制プランテーションでタバコ・綿花・米などを生産していた。
- ② 北部の植民地では、大地主制が発展し、主に小作農が穀物生産を担っていた。
- ③ アメリカ独立戦争では13の植民地がイギリス本国と戦った。
- ④ 北部のニューイングランドでは、本国の重商主義政策への不満が強かった。

(イ) アメリカ独立戦争に至るまでに起こった出来事の順番として正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- A：第1回大陸会議
- B：第2回大陸会議
- C：ボストン茶会事件
- D：印紙法制定

- ① D→A→C→B
- ② C→A→D→B
- ③ A→D→B→C
- ④ A→C→B→D
- ⑤ D→C→A→B
- ⑥ C→D→A→B

問3 下線部③について。国民議会が成立してから解散するまでの間に起こった出来事として誤っているものを、次の中から二つ選び、解答番号17の欄を使用して二つの番号をマークしなさい。

解答番号

- ① オーストリアへの宣戦布告
- ② 封建的特権の廃止の宣言
- ③ ヴァレンヌ逃亡事件
- ④ ヴェルサイユ行進
- ⑤ 「人権宣言」の採択
- ⑥ ジロンド派政権の成立

問4 下線部④について。恐怖政治は1793年6月から1794年7月末までの時期を指します。この時期に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① 強大な権限を持つ公安委員会が恐怖政治に使われた。
- ② ルイ16世が処刑された。
- ③ 共和暦(革命暦)が採用された。
- ④ 人間理性の崇拝が強制された。

問5 空欄

解答番号

- ① 立法議会
- ② 国民公会
- ③ 統領政府
- ④ 総裁政府
- ⑤ 王政復古

(2) ジョゼフィーヌとの結婚式の直後に、ナポレオンは第一次イタリア遠征に向かう。イタリア遠征で戦果を挙げ、名声を高めた後、1798年、今度はエジプト遠征に出発した。この遠征では、大勢の学者・科学者も同伴し、学術調査も行われた。遠征軍は での戦いで勝利し、さらにシリア・パレスチナ方面に進撃した。だが、戦況は悪化し、ナポレオンは遠征軍の指揮を部下に任せて、フランスに戻ることにした。巧妙な宣伝の効果があって、ナポレオンはエジプト遠征の勝者としてパリに帰還し、その軍事的栄光を背景にして、1799年11月のクーデタで権力の頂点に昇り

つめた。そして、イギリスと1802年には を結ぶなど対外平和も一時的にせよ実現し、1804年には皇帝として即位した。

大陸では戦勝を続けたナポレオンであったが、海戦ではイギリス海軍に苦しめられ、1805年のトラファルガー沖の海戦ではフランス・ の海軍は壊滅的な打撃を受けた。他方で、カリブ海のサン＝ドマング島へのフランス艦隊派遣も失敗に終わっているが、周辺海域でイギリス海軍の攻撃に悩まされたことも一因であった。

問6 下線部⑥について。当時のエジプトを支配していた国、あるいは王朝として正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① オスマン帝国
- ② マムルーク朝
- ③ ムハンマド＝アリー朝
- ④ エジプト王国
- ⑤ 西ゴート王国

問7 下線部①について。この遠征によって発見されたロゼッタストーンの碑文をもとに解読された古代の文字と解読した人物の組み合わせとして正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

	解読された古代の文字	解読した人物
①	ヒエログリフ	シャンポリオン
②	線文字B	シャンポリオン
③	ヒエログリフ	ヴェントリス
④	線文字B	ヴェントリス
⑤	ヒエログリフ	シュリーマン
⑥	線文字B	シュリーマン

問8 空欄 には、古王国時代のエジプトに造られた巨大ピラミッドがあります。空欄

解答番号

- ① メンフィス
- ② アマルナ
- ③ ギザ
- ④ テーベ
- ⑤ アレクサンドリア

問9 下線部⑧について。古代のシリア・パレスチナ地方に関する記述として正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号

- ① ヘブライ人が前14世紀末に王国を建設した。
- ② ヘブライ人の王国はソロモン王とその子ダヴィデ王の時に繁栄した。
- ③ イスラエル王国はアッシリアに滅ばされた。
- ④ ユダ王国はバビロン第1王朝に滅ばされた。

問10 空欄

解答番号

- ① アミアンの和約
- ② テイルジット条約
- ③ 宗教協約(コンコルダート)
- ④ ジュネーヴ休戦協定
- ⑤ アーヘン条約

問11 空欄

解答番号

- ① オーストリア
- ② サルデーニャ
- ③ シチリア
- ④ ポルトガル
- ⑤ スペイン

問12 下線部⑥について。フランス領サン＝ドマング島に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 26

- ① ブランテーションでサトウキビ栽培を行っていた。
- ② フランス領であったのは島の西部であり、東部はスペイン領であった。
- ③ フランス革命が起こると、これに影響されて黒人奴隷たちが反乱を起こした。
- ④ フランス軍を撃退して、ドミニカ共和国として独立した。

Ⅲ 次の文(1)・(2)を読み、下の問い(問1～問14)に答えなさい。

- (1) 中国東北地方の遼河の東側において、中国の明と交易していた女真は、建州女真のもとで ア を建てた。1636年、 イ は国名を清と改称し、内モンゴルの諸部族を、そして朝鮮半島を服属させ、明と対抗するに至った。

対する明は長年の財政難が深刻化しており、政治も混乱していた。1644年、^⑤ウの乱により明の崇禎帝が自殺すると、清軍は明の武将である呉三桂の降伏をうけて明の領土に進軍し、そして北京を占領した。こうして清朝は中華帝国としての地位を引き継ぐことになった。

また清朝は中国南方で起こった反乱を鎮め、台湾の勢力を降伏させて統治の基礎を固めた。^⑥さらに、ロシアと国境を画定し、またジュンガルとの戦争に勝利するなどして、支配領域を大きく広げたのである。

なお、ジュンガルとの戦いに際して焦点の一つとなったのは、チベットである。中央ユーラシア東方に浸透しつつあったチベット仏教の権威を最大限に利用するため、清朝は北京遷都後に エ を北京に呼びよせている。また、ジュンガルとの戦争においても、いずれがチベット仏教の守護者なのかをめぐっての対立が生じたのである。

問1 空欄 ア に入れるのに適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 27

- ① 後金 ② 後漢 ③ 西遼 ④ 西夏 ⑤ 東魏

問2 空欄 イ に入れるのに適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 28

- ① 完顔阿骨打 ② ヌルハチ ③ 耶律大石
④ ホンタイジ ⑤ 順治帝

問3 下線部③について。16世紀以降における明に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 29

- ① 北のモンゴルの侵入と南の倭寇の活動激化は、明を苦しめた。
- ② 張居正による財政立て直しが図られた。
- ③ 東林派と非東林派との党争により政治が混乱した。
- ④ 交鈔の乱発により明の経済は混乱した。

問4 空欄 ウ に入れるのに適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 30

- ① 李斯 ② 李舜臣 ③ 李時珍 ④ 李自成 ⑤ 李成桂

問5 下線部①について。中国南方で起こった反乱に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 31

- ① 呉三桂などが起こした乱である。
- ② 三藩の乱と称される。
- ③ 雍正帝のときにこの乱は鎮圧された。
- ④ 雲南・広東・福建で反乱が起こった。

問6 下線部④について。1689年、清朝はロシアとネルチンスク条約を締結して国境を定めた。ネルチンスクの位置として正しいものを、次の地図の中から一つ選びなさい。

解答番号 32

- ① A ② B ③ C ④ D ⑤ E



問7 空欄 エ に入れるのに適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 33

- ① グライ＝ラマ ② ソンツェン＝ガムボ ③ パスバ
④ ツォンカパ ⑤ アルタン＝ハーン

英語	一般選抜入試(中期日程) 世界史(2月14日)	
日本史		
世界史		
政治・経済		
数(文系型)学		
数(理系型)学		
物理		
化学		
生物		
正解・正解例 講評		
国語		

(2) 清朝はその初期からさまざまな民族・集団によって構成された多民族国家であり、広大な領地と多種多様な人民を統治するために種々の工夫がみられた。

その初期にはまず軍事・社会組織を編成し、文字（満洲文字）を制定して国家の基礎を固めた。また、多民族・多集団をその支配下に入れると、現地の支配者やその伝統社会を重視して柔軟に対応した。中国の漢人社会に関しては、基本的には明の制度をひきつぎ、漢人士大夫への配慮がなされた。そして、モンゴル・青海・チベット・新疆の地は藩部とされ、各地域の事情に合わせた自治が認められていた。

その一方で、清朝は満洲人貴族や建国以来の軍人を優遇し続け、中央官制における重要職には満人・漢人を同数置いた。また皇帝直属の諮問機関である **オ** を設置し、迅速な指揮命令系統の維持をはかった。清朝への降伏の姿勢は絶対であり、反満洲的な思想や抵抗運動はきびしく弾圧されるとともに、漢人男性へは辮髪が強制されたのである。

このような清朝の体制は、18世紀後半頃からほころびを見せ始める。繁榮のもとで激増した人口は、土地不足による農民の貧困化と社会不安を生み出した。18世紀末の **カ** や沿岸部の海賊活動活発化はその例である。さらに清朝政府の財政難が治安維持能力を低下させた。各地では秘密結社が勢力を増す一方で、自衛組織が地域への影響力を強めた。これら自衛組織は地方官僚の主導のもとで結成されたのである。

19世紀に入るとイギリスとの戦争、ロシアとの国境問題、さらに景気悪化による各地の反乱、なかでも 太平天国の建国は清朝に大きな打撃となった。清朝は相次ぐ反乱にもはや旧来の軍だけでは対応できず、地方の義勇軍、さらにはイギリス・フランスの手を借りざるを得なかったのである。この時期、清朝の体制改革は喫緊の課題であった。

西太后が実権を握った時代、地方官僚の協力と外国との関係改善により清朝の支配は安定へと向かった。この時期に西洋の知識と技術を導入することが進められたが、一方でそれに対する反発も決して小さくはなく、その動きは次第に停滞した。そして日清戦争に清が敗北すると、清政府内では危機感の高まりから立憲君主制を目指す動きが見られるようになるのである。

問8 下線部④について。満洲文字に関する記述として正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 **34**

- ① 満洲文字はヌルハチの時代に制定された。
- ② モンゴル文字と満洲文字の間には直接の関係がない。
- ③ 西夏文字は満洲文字の祖のひとつである。
- ④ 多民族国家である清では、満洲文字を公文書にて使用しなかった。

問9 空欄 **オ** に入れるのに適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 **35**

- ① 公行
- ② 緑営
- ③ 軍機処
- ④ 総理衙門
- ⑤ 八旗

問10 下線部⑤について。18世紀の人口激増期に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 **36**

- ① 四川や陝西など山間部への移住が進んだ。
- ② 18世紀末、中国の人口は10億人に到達した。
- ③ トウモロコシやサツマイモなどの自給作物が山間部に広まった。
- ④ 山地ではタバコや藍などの商品作物が作られた。

問11 空欄 **カ** に入れるのに適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 **37**

- ① 義和団戦争
- ② 赤眉の乱
- ③ 白蓮教徒の乱
- ④ 捻軍の反乱
- ⑤ 土木の変

問12 下線部⑦について。太平天国に関する記述として誤っているものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 **38**

- ① 洪秀全を指導者とした。
- ② キリスト教に民間信仰をとりいれた上帝会の活動が中心である。
- ③ 南京を占領して天京と改称し、首都とした。
- ④ 秩序の乱れを是正するために、仇教運動をおこした。

問13 下線部⑧について。地方の義勇軍に関する記述として正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 **39**

- ① 李鴻章が淮軍を組織した。
- ② 曾国藩が常勝軍を組織した。
- ③ 王守仁が郷勇を組織した。
- ④ 左宗棠が北洋軍を組織した。

問14 下線部⑨について。清末の西洋の知識と技術導入と、それに反対する動きに関する記述として正しいものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号 **40**

- ① 西太后は戊戌の変法を起こし、改革の動きを収束させた。
- ② 「中体西用」の考え方に基づき中国の道德倫理を変えようとした。
- ③ 同治帝の時代に清朝は内政・外交の両面で安定を取り戻した。
- ④ 清朝政府は、女性も含めて耕地を均分化する天朝田畝制度の導入をはかった。